



Report 2 人間ひな人形に見守られ おひなさん祭りで世代間交流

地域住民と庄原市社会福祉協議会が住みよい地域づくりを目的に実施する「ふれあいサロン」が3月6日、「お雛さん祭り」を開催し、比和保育所園児や地域住民約30人が比和上町集会所に集まりました。

この日は、園児の健やかな成長と幸せを願うため地域住民が、お内裏さま、おひなさま、三人官女に変装。園児の「おひなさん出てきてくださーい」の呼び掛けに応じて登場し、園児を驚かせていました。その後、参加者はひな壇に並んだ人間おひなさまたちに見守られながら、一緒に「わらべ歌」や「カレンダーマーチ」などの歌を歌ったり、手遊び歌で遊んだりしながら触れ合いました。

帰り際、地域住民が「子どもたちと交流ができて楽しいひと時を過ごすことができました。今日は来てくれてありがとう」とお礼を言うと、園児が「比和保育所にも遊びに来てください」と答えていました。

▶人間おひなさま人形の前で手遊び交流



Report 3 笑顔と笑いで地域がひとつに 第1回東城自治振興区まつり



「第1回東城自治振興区まつりステージ発表会」が3月1日、東城文化ホールで開催され、延べ650人が来場しました。

東城自治振興区内の自治会と生涯学習教室など19の団体・グループが、大正琴やコーラス、寸劇など日頃の活動の成果を発表しました。また、東城保育所年長児がかわいらしい踊りを踊るなど、会場は終始、笑顔と笑いに包まれていました。

会場に設けられたバザーコーナーでは、地域住民の手作り小物の販売や、地元食材を使ったうどんやおこわなどが販売され、丸1日にぎわっていました。

◀川東自治会の寸劇

Report 4 後継樹苗木が里帰り 県指定天然記念物「森湯谷のエドヒガン」

県天然記念物「森湯谷のエドヒガン」の後継樹の苗木が3月12日、東城町森に里帰りしました。これは、県内有数の巨樹であるこのエドヒガンを後世に残すことを目的に行われているもので、市教育委員会が平成24年度に独立行政法人森林総合研究所林木育種センターへ後継樹の苗木育成を依頼し、育成に成功した苗木の内2本が地元の森湯谷エドヒガン保存会に手渡されました。

後継樹は順調に育てば4～5年後には花が咲くということで、保存会によって親木の近くに植樹されました。

保存会の方々は「苗木が里帰りしてくれてうれしい、地元で愛される桜になるよう大切に守っていききたい」と話していました。



▲親木（奥）前での里帰りの様子

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 市民の熱い思いを届け激励 庄原市カープ応援隊が日南キャンプを訪問

庄原市カープ応援隊の訪問団28人が2月8日、カープのキャンプ地、宮崎県日南市の天福球場を訪れました。

到着した訪問団は、練習風景を見学した後、庄原市の特産品を野村謙二郎監督と永川勝浩投手に手渡し、今シーズンの奮闘をお願いしました。

庄原市カープ応援隊を代表してあいさつした木山耕三市長は「庄原市の特産品を食べて、今年こそ優勝

を！」と庄原市民の熱い思いを野村監督に伝えました。

昨シーズンは初のクライマックスシリーズ出場を果たし、リーグ優勝まであと一歩のところまで勝ち進んだカープ。今シーズンは「赤道直火」のスローガンの下、悲願のリーグ優勝を勝ち取るよう、庄原から熱い声援を届けましょう。

庄原市カープ応援隊の参加申し込みは、専用番号(☎0824-73-0919)まで。



▲野村監督（右）と固い握手を交わす木山市長



▲永川投手（左）に特産品を手渡す土井幹雄委員長





Report 8

小さな春の訪れを感じに多くの人 節分草祭

毎年恒例の「節分草祭」が3月9日、総領町の道の駅リストアステーションで開催され、約1,600人が訪れました。

来訪者は、節分草保存会やボランティアガイド「花守り」のメンバーから説明を受けながら、町内各所の自生地を回り散策を楽しんでいました。

この日は総領中学校の生徒も花守りとして参加。事前学習で得た知識を存分に披露し、しっかりとガイド

をこなしていました。

会場では地元自治会などが出店し、大道芸など楽しいアトラクションも行われ、にぎわっていました。

NPO 法人節分草保存会の中谷昭夫会長は「すでに公開をやめている自生地があるほど今年は開花が早い。一部ではイノシシの被害もあり大変だったが、こうして公開できてよかった」と話していました。



▲かわいらしい花をカメラに収める人



▲節分草の説明を聞く来訪者

Report 9

言葉・文化の壁を越えておもてなし 西城紫水高校と韓国茂朱高校が交流

姉妹校提携を結び、互いに訪問・交流を行っている西城紫水高校と韓国の茂朱高校が2月20日、交流を深めました。

今回は、茂朱高が交流事業で来日し、尹實権（ユン・ボグン）校長を含む教職員8人と2年生27人が西城紫水高を訪れました。

歓迎式では、西城紫水高1年の作田遥さんが代表して「言葉や文化に違いはあるが、同じ高校生同士恥ずかしがらず一緒に楽しみましょう」とあいさつし、

しゃもじやヒバゴングッズなどを手渡しました。

交流会では、西城紫水高の生徒たちが神楽や剣道、華道を披露し、茂朱高の生徒たちに日本のおもてなしの心に触れてもらおうと茶道体験会を行いました。初めて体験する茂朱高の生徒は、茶道部員の説明を真剣に聞きながら、おぼつかない手つきで抹茶を口に運んでいました。

その後は、いくつかのグループに分かれ、かるたや福笑いなどの遊びを通して交流を深めました。

茂朱高を代表して金柱燻（キムジュヒ）さんがあいさつし、「以前、来日したときに訪れた東京は、夜になっても明るく、きらびやかだったが、庄原は山が多く自然がいっぱいで空気がおいしい。日本の学生はおとなしく感じるが、同時に優しい人柄も感じる。山の上に学校がある風景も趣がある」と感銘していました。



▲茶道でおもてなし



▲かるたを楽しむ生徒

Report 5

本市地域医療の拠点病院の完成と節目を祝う 庄原赤十字病院増改築落成・創立70周年記念式典

平成23年2月に着工し3月に完了した庄原赤十字病院増改築完成を祝う式典が3月8日、同病院で開催されました。

またこの日は、昭和18年に開設した同病院の創立70周年を記念する式典も兼ねて開催されました。

病室などがある南棟を除いて解体し進められてきた増改築は、一昨年5月に外来診療や手術室などが入った西棟が完成し、このたび、受付や薬局、リハビリテーション室などが入った中央棟と駐車場などの周辺整備が完成したことですべての工事が完了となりました。

式典には、医療関係者など約100人が出席。式典に続いて、ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長で熊本県立大学理事長の五百旗頭真（まこと）さんによる記念講演が行われました。

この増改築完成によって、本市地域医療の拠点病院としての役割がより一層期待されます。



▲講演する五百旗頭理事長

Report 6

女性が輝けば まちも輝き みんなが輝く 元気な地域づくり研修会 第2回女性セミナー

〇和自治振興区女性部が主催する、元気な地域づくり研修会「女性セミナー」が2月16日、〇和自治振

興センターで開催され、約80人の女性が参加しました。



▲研修会の様子

第1部では、島根県飯南町で働く地域おこし協力隊の竹村佑子さんが、「私と地域のかかわり方」と題して講演。竹村さんは、東京から飯南町へ1ターンしたきっかけや温かく迎え入れてくれた飯南町の皆さんとのエピソードなどを交えながら、地域が元気になるためのヒントや実践事例を紹介していました。

第2部では、参加者全員で骨盤体操をして体をほぐしました。

参加者は「若い人が地域で頑張る姿勢に刺激を受けた。自分たちも楽しみながら地域で何ができるか考えてみたい」と話していました。

Report 7

農村民泊体験で都市部の子どもを受け入れ 高野で「とことん体験 雪国たかの」

農家や体験メニュー提供者などで組織する「高野地域農村体験交流協議会（通称：たかの遊☆学☆隊）」が主催するモニターツアー「とことん体験 雪国たかの」が2月22・23日の2日間、高野で開催され、広島市佐伯区の子ども会18人が参加しました。

経験をさらに積み重ねて、この地域ならではの観光につなげていきたい」と話しています。

大鬼谷オートキャンプ場に到着した一行は、高野の雪遊びを満喫。場内に設置されている巨大かまくらで、鍋やぜんざいを味わい、スポーツ雪合戦を体験しました。

その後、子どもたちは6軒の民泊家庭に分かれ一泊。それぞれ受け入れ家族と一緒に牛のえさやりや雪かきをしたり、スキーを楽しんだりして過ごしました。

同協議会会長の藤元竜二郎さんは「まだまだ課題もあるが、高野に何度も訪れてもらえるよう、こうした



▲宿泊農家で雪の下大根を掘り喜び子どもたち